

重症心身障害理学療法研究会

ミニ研修会 2019-2020 開催要綱

**目的

本研究会会員の臨床実践力をスキルアップするために会員相互で学習する機会を支援する。

会員自らの学習意欲と良い意味でのワガママ（探究心・向上心・好奇心）を満たすために、本研究会会員を講師として立案するミニ研修会の開催について、講師の旅費等を支援する。

**開催への流れ

書類 番号 ①	企画書 作成	* 企画について <ul style="list-style-type: none">・ 会員 2 名以上で企画・ 1 日（3～5 時間）で終了・ 開催時間の30%程度は ディスカッション内容とする （※セミナーのテーマに関する症例検討 を必ず含むようにお願いします）	* 費用について <ul style="list-style-type: none">・ 講師の日当は 2 万円・ 開催経費及び講師の日当は 企画者・参加者で折半し、参加費とする・ 参加決定後のキャンセルは原則、参加費負担・ 原則、収支差がないように完了すること・ 不測のことについては事務局で援助※講師派遣に伴う旅費は研究会が負担
		* 会場について <ul style="list-style-type: none">・ 企画者が用意（企画者施設可）・ 通常の業務時間外に実施	
	事務局 に提出	* 提出先 件名「ミニ研修会企画書」で、 zimukyoku@jusin-pt.net 宛てにメール	
	承認	* 開催決定の判断について <ul style="list-style-type: none">・ 実現有効性（以下参照）を優先に役員（代表・副代表・幹事長）三役と検討、判断①講師となる会員が物理的に講師を引き受けられること（日程、内容等）の検討②計画が具体的で、実施することの効果が高いと認められることの検討・ 最終決定は役員・運営委員の承認によるもの	
	広報 開始	* 広報・参加者について <ul style="list-style-type: none">・ 研究会 ML で情報公開すること・ 参加者は 5 名以上で会員資格は問わず、同一職場以外の方が含まれること	
②	アンケート	* 当日、終了後について <ul style="list-style-type: none">・ 参加者にアンケート配布（フォーマットあり）し、記載してもらう・ 終了後、2 週間以内（※厳守）に報告書のみ（フォーマットあり）を研究会 ML にて報告	
③	報告書		

**過去の企画・開催内容

実施日	タイトル	講師名
2013.4.28	Activity of challenged children	高塩 純一 氏 (びわこ学園医療福祉センター草津)
2013.7.21	重症心身障がい児の呼吸理学療法 (評価を中心に)	臼田 由美子 氏(群馬県立小児医療センター)
2014.6.16	「文献抄読を通して考える重症児・者の非対称姿勢」～非対称姿勢や姿勢ケア関連で読んできた文献の抄読を通じて非対称姿勢について一緒に考える～	奥田 憲一 氏(慈愛会 聖ヨゼフ園)
2014.7.6	重症心身障害児・者の評価を考える	中 徹 氏(群馬パース大学)
2015.4.11	障がい児・者の現状と未来を考える	高塩 純一 氏 (びわこ学園医療福祉センター草津)
2015.6.13	重症児者の生活機能評価 ～LIFEの評価講習会～	榎勢 道彦(四天王寺和らぎ苑)
2015.6.13	「動く」を支援することについて考えよう	高塩 純一 氏 (びわこ学園医療福祉センター草津)
2015.6.20	なぜ、非対称性姿勢が進行するのか？ 文献抄読・症例報告・グループ談話を通して非対称性姿勢について考える	奥田 憲一 氏(慈愛会 聖ヨゼフ園)
2015.7.5	呼吸管理を要する重症児についての評価・治療の検討	臼田 由美子 氏 (群馬県立小児医療センター)
2015.7.25	超音波画像診断装置を用いた筋骨格系の評価方法について	中 徹 氏(群馬パース大学)
2015.8.22	LIFEミニ研修会	榎勢 道彦 氏(四天王寺和らぎ苑)
2015.10.31	「重症児スポーツ・レク」～重心児にとって馬がもたらしてくれることと、一人一人の特性に合わせたサポート方法のディスカッション～	辻 清張 氏 (福井県こども療育センター)
2016.6.4	小児理学療法の理論と技術の変遷 ～経験と実践を踏まえて～	榎勢 道彦 氏(四天王寺和らぎ苑)
2016.7.9	重症児者のための心地良い移乗動作や体位変換の実際～家族や介助職員に向けてわかりやすい介助方法をテーマに～	花井 丈夫 氏 (横浜療育医療センター)
2016.7.16	動きたいきもちを支えるために私たちが できること	高塩 純一 氏 (びわこ学園医療福祉センター草津)

2016.7.17	重症児者生活機能評価LIFE ミニ研修会	榎勢 道彦 氏 (四天王寺和らぎ苑)
2016.7.31	重症心身障がい児・者の参加・活動を考える ～重症児・者が住んでいる地域で暮らすには～	平井 孝明 氏 (平井こどもリハビリテーションサービス)
2016.8.20	腹臥位姿勢導入の経緯と実態調査報告	染谷 淳司 氏 (東京小児療育病院・みどり愛育園)
2019.2.2	姿勢保持クッションを作る！	辻 清張 氏 (福井県こども療育センター)
2019.2.3	低緊張って何を現しているのか、 一緒に考えましょう	辻 清張 氏 (福井県こども療育センター)
2019.2.16	重症心身障害児・者の呼吸理学療法	平井 孝明 氏 (平井こどもリハビリテーションサービス)
2019.3.1	重症心身障害児・者の世界	榎勢 道彦 氏 (四天王寺和らぎ苑)
2019.3.16	子どもの運動発達について改めて考える	高塩 純一 氏 (びわこ学園医療福祉センター草津)
2019.3.16	症例検討 ～安心して活動ができる呼吸へのアプローチと姿勢の提供方法～	平井 孝明 氏 (平井こどもリハビリテーションサービス)

* その他 企画提案例

- ・「レッツ・スイム！医療的ケアの必要な子どもたちがみんなと一緒に水泳を楽しもう！」
～らっこの活動を紹介しつつ、水泳理論、医療的ケアへの準備や対応、水中ハンドリングなどを座学し、可能ならプールで具体的なハンドリングを学びあいませんか。～
講師 染谷 淳司 氏 (らっこ支援者の会代表)
- ・「症例検討」
個別的な評価と治療を実際のお子さんたちを通して学び共有し、合わせて実技練習。
呼吸、嚥下、消化器機能といった合併症の対策も含め、最も大切な治療を検討していく
講師 金子 断行 氏 (株式会社 目黒総合リハビリサービス)

※上記企画以外、自主企画も可能

事前相談可能ですので、講師・内容についてもご相談下さい。